

広域道路交通量算定等業務

業務内容説明書

1. 業務目的

本業務は、大分県大分市を起点とし、愛媛県八幡浜市を終点とする構想路線である豊後伊予連絡道路について、交通量を算定し、整備効果を把握するとともに、豊後伊予連絡道路の費用対効果の算出やPFI的手法の検討への活用等、今後の検討に向けた基礎資料としてとりまとめることを目的とする。

2. 検討対象区間

対象路線は以下とする。なお、①豊後伊予連絡道路については、今年度実施する「令和7年度豊後伊予連絡道路トンネル工法検討等業務委託」により設定する道路線形を参考にすること。

- ①豊後伊予連絡道路（大分宮河内IC～保内IC）
- ②九州地方新広域道路交通計画（令和3年7月国土交通省九州地方整備局）における高規格道路
- ③四国地域新広域道路交通計画（令和3年7月国土交通省四国地方整備局）における高規格道路
- ④その他、交通量算定や整備効果検討に大きく影響する路線

3. 業務内容

（1）OD表の作成

H27 道路交通センサス全国OD表を基に、現況OD表・将来OD表とBゾーンOD表等をネットワークレベルに合わせて細分・統合することとし、本推計に用いる細分OD表を作成する。全国ODについては貸与するものとする。

- ① 現況OD表の作成
- ② 将来OD表の作成

（2）ネットワークデータの作成

「2. 対象路線」を参考に、大分県・愛媛県の現況ネットワーク、将来ネットワークを作成し、これを補完する広域圏のネットワークデータを作成する。

- ① 現況ネットワークの作成
- ② 将来ネットワークの作成

（3）現況再現性の確認

（1）（2）で作成したデータに基づき現況交通量配分を行い、H27 年道路交通センサス箇所別基本表の交通量と現況再現値とで再現性を確認する。

（４）料金設定

通行料金設定による交通量の増減の傾向を把握するため、現状のフェリー運賃や海峡部を跨ぐ高速道路の料金等を考慮して通行料金を数パターン設定する。

（５）将来交通料推計（令和２２年）

以上の結果を踏まえて、対象路線①②③④整備後および②③④整備後等の令和２２年の将来交通量推計を行う。なお、豊後伊予連絡道路については、無料および「（４）料金設定」のパターン毎に推計を実施する。

（６）整備効果

上記交通量推計結果を活用し、豊後伊予連絡道路整備時の直接効果（時間短縮など）や波及効果（経済効果など）を検討する

4. 照査

受注者は、設計業務等共通仕様書（令和６年１２月）第 1108 条 照査技術者および照査の実施に基づき、照査技術者により業務の主要なタイミングで適切に照査を実施するものとし、照査結果は速やかに調査職員に報告する。

5. 報告書作成

以上の本業務の成果を取りまとめ、報告書を作成する。報告書は下記のとおり成果品として提出する。なお、最終成果品の形態等は、協議により決定するものとする。

報告書 : 1 部

原稿（電子媒体） : 2 部（CD または DVD）